

「ワークショップ 東京湾から見た東京の風景」に参加して

1. 練習船による東京湾視察

2004年3月10日(水)の朝9時半に東京海洋大学越中島校舎に集合した我々は、主催者である庄司教授(東京海洋大学)と須永理事長(江東区の水辺に親しむ会)の主旨説明・挨拶の後、早速練習船「やよい」に乗り込み東京湾視察へと出発した。“天気晴朗・波穏やか”な、これ以上望むべくもない絶好の日和だった。隅田川(中央大橋、佃大橋、勝鬨橋、築地魚市場、晴海埠頭、竹芝桟橋)からレンボーブリッジ、お台場、大井埠頭、ごみ最終処分埋立地、東京ディズニーランド、有明埠頭などを周遊見学した。

海から眺める都心部の景観は近年大きく様変わりしていて、湾岸沿いの超高層ビル群の乱立や風力発電用の風車(3基)、大観覧車(2基)、橋梁用の橋脚など年々変化している。もちろん海から眺められるものは静的な建造物だけではなく、羽田空港の間断なく離発着する飛行機や様々な船(コンテナ船、遊覧船、豪華客船、作業船、釣船、帆船〈日本丸〉……)の航行およびカモメ、カワウ、カモ、コサギ、カラス、ハトなどが飛び交う様。さらには、ボラが水面上に飛び跳ねたり、カワウが魚を捕らえて食べたり、船上から投げるパン切れをたくさんのユリカモメがダイレクトにキャッチする様など刻々と変化する風景には全く飽きることがない。

東京湾はかつて豊饒な海であり、人々に多くの恵みを与えてくれていた。そのような自然環境の回復を図りつつ、更なる社会・経済的な利活用の工夫はないかと考えている間に、2時間の快適な周遊行程を終えて越中島に帰港した。

2. ワークショップ&フリーディスカッション

昼食休憩後の午後1時半からは、3人の講演者による話題提供で始まった。

最初に「まちづくりにおける市民団体の役割について～サンフランシスコを例に～」というテーマで竹内智子氏(東京都都市計画局都市基盤部施設設計課)が話された。サンフランシスコ市の公園計画のNPOスタッフ活動を実践され、その役割の大きさについて根拠・背景等を分析され、東京へのヒントという形で、実践へ向けての情報・組織・行動方策などの提言をいただいた。東京も本格的なNPOの機能化の必要な時代になったと強く感じた。

次に「市民参加とまちづくり」のテーマで志村秀明氏(芝浦工業大学助教授)に、“視覚的メディアによるデザインシミュレーション”とロールプレイ方式の“ゲーミング”的組み合わせによ



東京ディズニーリゾートも海側からみると…る新しい考え方と方法論である「デザインゲーム」をご紹介いただいた。このデザインゲームは、様々な視点・角度からの具体的な討議ができ、顕在的な問題・課題の解決策や潜在的なニーズの発掘など多様な検討ができる。また、プログラムの組み立て方で種々の層や対象に対応でき、市民参加のまちづくりにぜひ実践してみたいと感じた。

続いて「東京港の水辺の魅力づくり」のテーマで、阿世賀康明氏にマリン事業者と地域NPOサポーターの立場からお話しをいただいた。近年における東京の河川・港湾の激しい構造変革の中で、中小マリン事業者として如何に生き延びてきたかという実践論だった。ボートライセンススクール事業や各種ボートを使用したお台場のピーチイベント、地域NPOによる自然との触れ合い活動など新しいアイデアと行動力を強く感じた。また、今後の夢として、東京湾を活用した「レストランボート」事業の発展に及び、東京湾の世界一素晴らしい夜景をぜひ満喫して欲しいと話された。

話題提供講演の後に、飲物とお菓子でリラックスした形でフリーディスカッションを行った。参加者全員の活発な討議に定刻終了時間をオーバーしてしまったが、充実した内容で参加者も大いに満足し、3氏の貴重な話題提供講演に感謝の拍手を送って終了散会した。

私の全体の感想としては、東京湾と都心部の河川が協働・連携して水環境・自然環境として捉え、専門家や直接利害関係者だけでなく、より多くの一般市民が参画することにより、東京の風景・景観および社会・経済・文化・産業への幅広い活性化を考え行く必要があると感じた。そのためには、本会合のような催しを継続化し、様々な領域に発展進化していくことに注力したいと思った。

「江東区の水と緑を活かした まちづくりを考える懇談会」 に参加して

「私を深川に惹きつけるひとつの風景は、その土地を縦横に走る掘割である。」作家の藤沢周平氏は、かつての活気に充ちた深川についてこう述べています。現在その掘割も大部分が埋め立てられ、親水公園や遊歩道に変わりましたが、残された川にその名残をわずかにとどめています。水郷の「12橋めぐり」、九州柳川の「川くだり」など、川や掘割を観光地としている所もありますが、深川のそれは、残念ながら、その文化遺産としての歴史的価値や、景観などのアピールはありません。地元商店街として、深川の川に本来の役目と活気を取り戻し、「深川」という歴史的なブランドに新しい息吹を吹きかけたい、という期待をもって、この懇談会に参加させて頂いています。来春桜の季節には、川辺の桜を多くの方に楽しんで頂けるよう計画中です。 深川仲町通り商店街 本間守



2回目懇談会の様子

美しい街づくりシンポジウムに招待されて



江東区から全国に発信するチャンスになったシンポジウム

3月20日の名古屋において、美しい街づくりシンポジウムが開催されました。「草の根」型の街づくりを実践している方々が、全国各地より集まって経験と知恵を共有する、という趣旨のシンポジウムです。主催であるNPO法人日本都市計画家協会から、当会もこのシンポジウムに招待され、私たちの活動理念や活動実績、江東区や東京湾の魅力をアピールしてまいりました。限られた発表時間の中で話すには、私たちはあまりにも多くの活動実績を持っていて、しかも江東の水辺にはたくさんの魅力があり、役不足の私ではすべてを簡潔に述べるのは非常に難しかったです。

このシンポジウムには他に、小学校と商店街で作る花壇のまち(福岡市・市民団体)、市街地に残る里山との共生(名古屋市・

市民団体)、工場跡地の美しい土地利用とマネジメント(札幌市・NPO)、地域の居住環境改善のための住民協定(諏訪市・市民団体)、城下町の路地を活かした街づくり(犬山市・行政)、新興団地周辺の森林緑地の住民による保全管理(各務原市・市民団体)など、多数の団体から街づくりの経験と知恵が話されました。どの団体も地域の長所や短所を良く知り、短所も含めて地域に愛着を持っているように感じました。街づくりは皆のために行うものであるはずですが、それを実践して形にするには大変なエネルギーが必要であり、そのエネルギーの源には地域への愛着心があるのだと思いました。

会場で傍聴していた学生から「街づくり活動をするNPOに就職したい」との声が上がりました。近年、開発一辺倒の経済効率型の街づくりから、人と人のつながりを意識した街づくりへと変わりつつある中、建築・土木を学ぶ学生の中にもNPO的思想の街づくりに興味を持つ人が増えているようです。この若いエネルギーも貴重な資源だと思います。

シンポジウムの最後に、「美しい街づくり」宣言がなされました。美しい街とは、物理的に美しいだけではなく、人の心に美しさを生み出す街である、と宣言しました。問題意識を持って課題に取り組んでいる団体が参加した中で、子どもも大人も楽しめる水彩フェスティバルを開いたり、商船大の船に乗ってお台場やディズニーランド、築地に出かけるような、遊び心が豊かなNPOは私たちだけだと思いました。

奈良朋彦

はじめて総会に出席しました

4月24日、「江東区の水辺に親しむ会」の総会にはじめて出席しました。開会時間の午後4時に遅刻しましたが、総会はまだ始まっていません。総会は仰々しいものといったイメージが、一瞬にして吹き飛びました。とても気軽な雰囲気のなか、総会が始まった後も、「いやあ～、開始時間を勘違いして…。」と入ってくる方もおられ、地域の方々で支えられているNPOならではの光景に親しみを感じられました。

とはいっても議論は真剣そのもので、会計のような事務的な議題から、もっと多くの会員の方々に参加していただく工夫についてまで幅広く話し合いがなされました。会場は時間も限られていたので、議論が酒宴の場に移され続けられたことも報告させていただきます。

難波匡甫



総会とその後の懇親会

発行日／平成16年6月20日

発行／特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会

〒135-0023 東京都江東区平野 2-8-10-608

連絡先／Tel. 03-5639-2818 Fax. 03-5639-2822